

関西6大学発 農業系研究シーズ/共同研究 /ベンチャーの 現状と未来

KSII
Kansai Innovation Initiative



京都大学

～食のバリューチェーンから関西農業系
イノベーションエコシステム形成を目指して～

世界の食料需要激増が見込まれている中で、これまでの生産効率のみを追求した農業では、気候変動問題をはじめとしたさまざまな社会課題に対応できないことが想定されます。また、持続可能な農業に向けたパラダイムシフトを実現させるべく、大学というアカデミアを中心とした破壊的イノベーション創出への期待が高まっています。

一方、関西には、農業系学部を有する大学や農業系公的研究機関、農機や種苗、農業、食品加工などといった産業の集積、10万人以上の農業従事者をはじめとする生産地、我が国総人口の16%を占める巨大市場などがあり、その農林水産業に関するポテンシャルには大きな期待が寄せられています。

本シンポジウムは、農林水産関連のシーズについて、食のバリューチェーンの流れからアプローチする3日間となっており、各日は「研究シーズ」「共同研究」「関連ベンチャー」というシーズの流れに応じた構成となっています。関西における農業系イノベーションエコシステム構築に向けた第一歩となるものですので、農業系分野に関連する方はもちろん、データサイエンス、電子機器、エネルギー、流通など幅広い業界の方のご参加をお待ちしております。



日時

1日目 2022年 12月2日 金
13:00-14:55

2日目 2022年 12月9日 金
13:00-14:30

3日目 2022年 12月23日 金
13:00-14:30

方式 オンライン開催 (zoom)

定員 各200名 (申込多数の場合は抽選)

申込・詳細 <https://www.kyodai-original.co.jp/?p=17052>

申込期限 1日目…12月 1日(木) 正午
2日目…12月 8日(木) 正午
3日目…12月 22日(木) 正午



参加費
無料

主催：関西イノベーションイニシアティブ
京大オリジナル株式会社
共催：京都大学産官学連携本部

お問合せ
京大オリジナル株式会社 プロジェクトマネジメント部
TEL:075-753-7778 E-mail:kensyu@kyodai-original.co.jp

関西イノベーションイニシアティブ (KSII)

公益財団法人都市活力研究所が創出エリア支援機関となり、経済産業省の「産学融合拠点創出事業 (J-NEXUS)」に採択された事業です。京都大学・大阪大学・神戸大学をはじめとする関西の大学・経済団体・自治体等、産学官が集結するオール関西の取り組みで、関連する団体とともに関西をイノベーションの一大拠点とするべく動き出しました。

近畿圏の強みである特色ある大学群と企業群の集積を最大限に活かしたイノベーション創出活動の推進に取り組むことで、国内外の多様な主体の参画を可能とする交通至便な京阪神都心部における交流・情報発信拠点づくりを目指しています。

<https://ksii.jp/>



京大オリジナル株式会社

京大オリジナル株式会社は、京都大学が100%出資した事業子会社で、研修講習事業とコンサルティング事業を行っています。弊社の収益の一部は京都大学に還元され、最先端の研究などに活用されます。

京大オリジナル(株)のイベントはこちら
https://www.kyodai-original.co.jp/?page_id=2180



最新のイベント案内やイベントレポートはこちら
<https://www.facebook.com/kyodaioriginal/>



「持続可能な生産体制」

13:00 – 13:10 シンポジウム開催趣旨 & KSII活動紹介
関西イノベーションイニチアティブ

13:10 – 13:30 講演1 「みどりの食料システム戦略
—生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する—」
古田 恭子 〈農林水産省大臣官房環境バイオマス政策課みどりの食料システム戦略グループ
地球環境対策室課長補佐 (国際班担当)〉

13:30 – 13:50 講演2 「ガス交換観測による森林の炭素動態の実態解明」
坂部 綾香 〈京都大学 白眉センター 特定助教〉

13:50 – 14:10 講演3 「SDGs駆動型都市農業への挑戦」
横井 修司 〈大阪公立大学 農学研究科 教授 / 農学部附属教育研究フィールド フィールド長〉

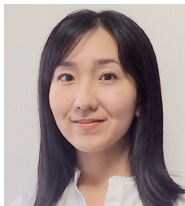
14:10 – 14:30 講演4 「地域特有の生態系資源を活用した農業の実践
～『土着の菌』がもつ地産地消/脱農薬資材としてのポテンシャル～」
石川 奏太 〈京都大学発ベンチャー / Sunlit Seedlings株式会社 代表取締役〉

14:30 – 14:55 質疑応答
3名 (講演2～4) の登壇者に対して、参加者からのQ&A



古田 恭子 農林水産省大臣官房環境バイオマス政策課みどりの食料システム戦略グループ
地球環境対策室課長補佐 (国際班担当)

平成15年4月農林水産省入省、農林水産技術 (国際研究)、遺伝資源、気候変動 (国際関係) 担当を経て現職。



坂部 綾香 京都大学 白眉センター 特定助教

京都大学 博士 (農学)。専門は生物環境物理学。京都大学生存圏研究所ミッション研究員、日本学術振興会特別研究員 (PD) を経て、2019年に京都大学白眉センター特定助教に採用され現在に至る。森林が炭素、水循環に果たす役割をフィールドでの観測により明らかにする研究に取り組んでいる。



横井 修司 大阪公立大学農学研究科 教授 / 農学部附属教育研究フィールド フィールド長

東北大学 博士 (農学)。専門は植物育種学。アメリカのパデュー大学博士研究員、奈良先端科学技術大学院大学 助教、岩手大学 准教授を経て2015年に大阪府立大学生命環境科学研究科 教授として赴任、現在に至る。専門のイネ科作物の環境受容機構の研究とともにフィールドの立地を活かした都市農業の社会実装に取り組んでいる。



石川 奏太 京都大学発 / Sunlit Seedlings株式会社 代表取締役

筑波大学大学院生命環境科学研究科生物科学専攻修了、博士 (理学)
同大にてコンピューターサイエンス専攻修了、修士 (工学) 筑波大研究員を経てJSPS特別研究員、仏パスツール研 / 東京大学大学院生物情報科学科にて微生物を中心としたバイオインフォマティクス研究に従事。2020年サンリット・シードリングス株式会社入社、研究開発部長として事業運営・技術開発をリード、2022年より現職。

■ <https://www.sunlitseedlings.com/>

「持続可能な加工・流通システム」

13:00 – 13:05 当シンポジウム第1日目振り返り

京大オリジナル株式会社

13:05 – 13:25 講演1「機械学習と分光分析を用いた農畜産物の非破壊品質評価」

黒木 信一郎〈神戸大学大学院 農学研究科 准教授〉

13:25 – 13:45 講演2「就農者と消費者間での有益な情報収集のための
システムの構築とその活用」

加島 智子〈近畿大学 工学部 准教授〉

13:45 – 14:05 講演3「天然氷結晶制御エキスによる農産物生産及び保存技術イノベーション」

河原 秀久〈関西大学発ベンチャー／株式会社KUREi(カレイ) CTO
兼 関西大学化学生命工学部 教授〉

14:05 – 14:30 質疑応答

3名の登壇者に対して、参加者からのQ&A



黒木 信一郎 神戸大学大学院農学研究科 准教授

坂の街、長崎市出身。大学でポストハーベスト工学に出会ってその魅力に引き込まれ、国内外で武者修行の後、故郷とどこか似た神戸に辿り着く。現在は特に、壊すと変わるし追跡できないというジレンマに対抗すべく、非破壊非侵襲にこだわった、次世代の食料流通に資する生体情報の計測技術開発に挑んでいる。



加島 智子 近畿大学 工学部 准教授

大阪大学大学院情報科学研究科博士後期課程修了、博士(情報科学)。近畿大学工学部助教・講師を経て、2022年より准教授となり現在に至る。現在、デザイン学、教育工学、社会システム工学の分野に関する研究に従事。



河原 秀久 関西大学発／株式会社KUREi(カレイ) CTO 兼 関西大学化学生命工学部 教授

関西大学31年間の基礎技術で得られた技術の特許を実装化するために、2016年11月に(株)KUREiを起業した。現在、兼業でCTOとして会社の運営に携わっているが、大学の研究の成果の一つが、2015年度文部科学大臣表彰(開発部門)を受賞している。この氷結晶制御エキスは、食品加工廃棄物より生産しており、SDGsにも貢献している。

■ <http://www.kurei.co.jp/>

「持続可能な調達・消費」

13:00 – 13:05 当シンポジウム第2・3日目振り返り

京大オリジナル株式会社

13:05 – 13:25 講演1「**地産地消型エネルギーシステムの構築に向けた基礎研究**
～システム工学とデータ応用の視点から」

薄 良彦〈京都大学 工学研究科 准教授〉

13:25 – 13:45 講演2「**食品加工残渣を活用したバイオコークス製造**」

井田 民男〈近畿大学 バイオコークス研究所 所長・教授〉

13:45 – 14:05 講演3「**自然栽培と食用昆虫を組み合わせた環境循環型アグリシステムの構築**」

武田 征士〈京都府立大学発ベンチャー／未来食研究開発センター株式会社 取締役
兼 京都府立大学 大学院 生命環境科学研究科 准教授〉

14:05 – 14:30 質疑応答

3名の登壇者に対して、参加者からのQ&A



薄 良彦 京都大学大学院 工学研究科 准教授

2005年3月京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了。同年4月京都大学大学院助手。同助教、講師を経て、2016年4月大阪府立大学大学院准教授。2022年4月より京都大学大学院准教授。2019年10月よりJSTさきがけ研究者。非線形システムの解析と制御をベースとして、エネルギー工学の研究に従事。博士（工学）。



井田 民男 近畿大学 バイオコークス研究所 所長・教授

燃焼工学を基盤に固体バイオエネルギーの開発に取り組んでいる。石炭コークスを代替できる炭素中性かつ持続性を有するバイオマスの高密度・高強度（硬度）化を発現した固体バイオ燃料の開発が望まれる。エネルギー争奪の時代が迫る中、自立可能なエネルギー資源開発こそ唯一、回避できる手段であると信じてやまない。



武田 征士 京都府立大学発／未来食研究開発センター株式会社 取締役
兼 京都府立大学 大学院 生命環境科学研究科 准教授

大分市出身、京都大学理学部・理学研究科、博士（生物学）。ジョンイネスセンター（英国）ポスドク研究員、奈良先端科学技術大学院大学特任助教、京都府立大学助教を経て現職。専門は植物発生学・分子遺伝学。花や虫こぶの研究をきっかけに、植物と虫の能力を利用したアグリシステムを構築し、2022年6月に大学発ベンチャーを起業。

■ <https://futurefood-rd-center.com/>

【注意事項】

■Zoomの仕様や使い方に関するお問い合わせには、お答えしかねます。また、お客様の環境等が原因で発生した、視聴できないといったトラブルにつきましては個別の対応はございません。予めご了承ください。

■次の行為はお控えください。

- ・本シンポジウムの全部又は一部を第三者に提供する行為
- ・本シンポジウムの録音、録画、撮影、その他複製行為
- ・同時に二台以上のデバイスで本サービスを利用する行為